



平成26年度 果樹情報 第3号

(平成26年4月21日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (4月中旬：果樹研究所)

4月中旬の平均気温は3半旬が9.7℃で平年より1.0℃、4半旬が10.3℃で平年より1.2℃低く、この期間中の降水量は1.0mmで平年の3%でした。

2 土壌の水分状況 (4月21日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmで2.1、40cmで1.7、60cmで1.9と適湿条件の範囲です。

3 発育状況 (果樹研究所)

- (1) もも「あかつき」の満開は、平年より2日早い4月19日でした。
- (2) なし「幸水」の開花始めは、平年より2日早い4月21日でした。
- (3) りんご「ふじ」は、未開花の状況です。
- (4) おうとう「佐藤錦」の開花始めは、平年より2日早い4月17日でした。
- (5) ぶどう「巨峰」の発芽は、平年より2日早い4月17日でした。

表1 開花状況

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月14日	4月15日	4月13日	4月19日	4月21日	4月18日
	ゆうぞら	4月15日	4月16日	4月14日	4月20日	4月21日	4月19日
なし	幸水	4月21日	4月23日	4月19日	未	4月27日	4月27日
	豊水	4月16日	4月19日	4月15日	未	4月24日	4月22日
りんご	つがる	未	4月26日	4月25日	未	5月1日	5月2日
	ふじ	未	4月27日	4月26日	未	5月1日	5月3日
おうとう	佐藤錦	4月17日	4月19日	4月16日	未	4月25日	4月24日

注) 平年値は、1981～2010年の平均値 (おうとうは1994～2010年)。

表2 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨峰	4月17日	4月19日	4月18日	未	4月25日	4月26日

注) 平年は1988～2010年の平均値。

4 開花予測

今後の気温が平年並に経過した場合、りんご「ふじ」の開花始めは、4月26日で平年より1日早いと予測されます。

なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気象推移に注意しましょう。

表3 開花予測日 (4月21日現在) (農業総合センター果樹研究所)

樹種	品種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
		昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
りんご	ふじ	4月26日	4月27日	4月26日	4月25日	4月28日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。開花始めの平年は1981～2010年の平均値。

東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成26年4月17日発表)

今後の気温の経過は、1週目(4月19日～4月25日)は平年並の確率が40%、2週目(4月26日～5月2日)は平年並、高い確率が各40%、3～4週目(5月3日～5月16日)は平年並の確率が40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

○最高・最低気温分布予想

一辺20kmの正方形のマス目にわけて、そのマス目の中の代表的な気温などを予想しており、翌日朝の最低気温の予想などが表示されます。

URL: http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t_maxmin.html

5 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が低く凍霜害の危険性が高くなるため、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

事前対策として、防霜資材の手配とその準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため、下草を5cm程度に刈り込みましょう(地際部まで刈ると放射性物質をまきあげるおそれあり)。

また、空気や土壌が乾燥している場合は、適宜かん水を実施し土壌水分を確保しましょう(乾燥条件は気温の低下を助長するため)。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保に努めましょう。

(2) 結実確保対策

開花期が低温や強風、降水(雪)による湿潤、極端な乾燥等で経過するような場合は、人工受粉を丁寧に行いましょう。

人工受粉の際、花粉を石松子等で増量する場合は、事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数とし、発芽率が30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用しましょう。

なお、凍霜害を受けた花から花粉を採取した場合は、必ず発芽率を確認してから利用しましょう。

6 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんご黒星病、うどんこ病

果樹研究所内の慣行防除体系の「紅玉」で、4月14日にうどんこ病の発生が確認されましたが、発生の割合は1.6%と低い状況でした。

しかし開花期前後は本病及び黒星病の重点防除時期に当たるため、開花直前と落花直後に有効なDMI剤のいずれか一剤を散布し被害防止に努めましょう。

イ ももせん孔細菌病

第一次伝染源の春型枝病斑は開花期以降に発生し、降雨に伴って病原菌が分散し新梢葉に感染します。

昨年発生が見られた園では、落花直後に必ず本病の防除剤を散布し、初期感染の防止に努めましょう。また、春型枝病斑やこれに類似する疑わしい枝枯れ等は、見つけ次第徹底してせん除しましょう。

ウ なし黒星病

開花期の前後は、本病に対する感受性が非常に高く、重点防除時期に当たります。このため、開花期の前後に、本病に効果が高いDMI剤を間隔が10日以上開かないように散布しましょう。

なお、天候等の影響で散布間隔が10日以上開いてしまうことが予想される場合には、受粉が十分に行われた後（満開5日後頃）に、落花直後の防除を行いましょ。

また、第一次伝染源となる花そう基部病斑は見つけ次第除去し、伝染源の密度低下に努めましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

今後、気温が平年並みに推移した場合、第1世代幼虫の防除適期は4月6半旬～5月1半旬と予測されます。受粉用にミツバチを導入している園では、巣箱回収後に速やかに防除を行いましょ。

イ ハマキムシ類

今後、気温が平年並みに推移した場合、リンゴモンハマキ越冬世代成虫の誘殺盛期は5月5半旬と予測され、リンゴコカクモンハマキもこれに準ずると予測されます。

このため、複合交信かく乱剤は、これらの越冬世代成虫の発生前に当たる5月3半旬頃までには、設置を完了させましょ。

ウ その他鱗翅目害虫

ナシヒメシクイのフェロモントラップへの初誘殺日は4月10日で、ほぼ平年並の状況でした（平年値は4月9日）。例年発生が多い園では、5月2半旬頃までに防除を実施ましょ。なお、キンモンホソガもこれに準じて防除を実施ましょ。

エ リンゴハダニ

今後、気温が平年並みに推移した場合、ふ化盛期は4月5半旬頃と予測されます。越冬卵の密度が高い園では、落花期以降の発生密度に十分注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に及んだ時点で直ちに殺ダニ剤を散布ましょ。

表4 果樹研究所における主要害虫の防除時期の推定
（演算方法は三角法、平成26年4月21日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	4月22日	4月28日	5月15日	5月28日
平年並み	4月23日	4月30日	5月21日	6月4日
2℃低い	4月24日	5月2日	5月29日	6月14日

起算日：3月1日

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>